

2022(令和4)年 12 月 12日

2022 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人子どもセンターパオ

代表者・役職名 氏名 理事長 菱田理

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

IT導入事業 子ども達にスマホを！

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

子どもセンターパオは弁護士や福祉関係者、市民などが集まり、2007年から、虐待やDVにより家に居場所のない十代の少女に、緊急避難場所として温かいご飯や布団を提供するシェルターの運営を開始しました。その後、2011年にシェルターの次のステップとして家庭的な環境の下、自立を目指していける場所として自立援助ホームぴあ・かもみーるを開所し、これまで約100名の子どもたちと関わってきました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

今までは、施設から子ども達に貸与している携帯電話はガラケーでしたので、学校との連絡調整や課題にアプリのダウンロードが必要であったり、アルバイト先との連絡手段としてLINEの利用を求められたりする場合など、対応が困難で不都合が多々生じていました。

今やスマートフォンは持って当たり前のように普及しており、ガラケーを利用している子どもはほとんどいないのが現実です。スマホを整備して貸与することで、子ども達に世間並みのIT環境を整えることを目標としました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

施設利用の子ども達にスマホを貸与し世間並みの IT 環境を整える。

スマートフォンを購入し、施設利用者の子も達に貸与することで、これまで、施設の PC でしか利用できなかった LINE や、学校やアルバイト先で必要なアプリ等を、個々が使用するスマホで利用できるようになり、日常に必要なコミュニケーションをスムーズにとれるようにします。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

スマートフォンを導入して、世間一般並みの IT 環境を整備することができた。

子ども達は、学校の課題や連絡などをスマホで受け取ることができるようになり、また、バイト先との日常のコミュニケーション(シフトや出勤の連絡等)がスムーズに取れるようになり、日常生活でのストレスが軽減した。また、担当する弁護士とも LINE を使用することで電話よりも安価で気軽に連絡がとれるようになった。これらは子どもの気持ちの安定につながり、ひいては子ども達の自立に資することとなります。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

スマートフォンの利用に関し、新たなルール決めをします。

具体的には、使用時間や場所を限定する、SNS 投稿をしない、連絡先を交換する場合は、施設のスタッフやパートナー弁護士と相談するなどです。

子ども達に、トラブルに巻き込まれず、安全にスマートフォンを利用する適切な IT 教育を施していきます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

